

小金井 市民 オーケストラ

REGULAR CONCERT
定期演奏会

41st

シューベルト 交響曲 第2番 変ロ長調 D.125
モーツァルト 交響曲 第40番 ト短調 K.550

指揮：工藤俊幸
(国立音楽大学客員教授)



2024年12月15日(日)
18:30開場・19:00開演
小金井宮地楽器ホール
(小金井市民交流センター)
大ホール
JR中央線 武蔵小金井駅南口正面

全席自由 入場料 1,000円
小金井宮地楽器ホールチケットデスク

【お問い合わせ】小金井市民オーケストラHP
<https://www.koganeiorchestra.jimdo.com/>

主催： 小金井市民オーケストラ
後援： NPO法人小金井市文化協会
後援： 小金井市・小金井市教育委員会
協賛： 小金井さくらロータリークラブ



指揮：工藤俊幸



1966年山形県に生まれる。国立音楽大学音楽学部作曲学科卒業。桐朋学園大学音楽学部オーケストラ研究科指揮専攻修了。指揮を崎田俊治、黒岩英臣、飯守泰次郎各氏に、作曲を増田宏三、島岡譲両氏に師事。1992年オーディションで選ばれ仙台フィル副指揮者に就任。外山雄三音楽監督のもと、1996年までその任を務める。その後一年間ベルリン・ドイツ・オペラで研修。帰国後は全国各地のプロオーケストラを指揮する傍ら、合唱指揮者としても高い評価を得ている。2016年より国立音楽大学音楽研究所公演としてバーンスタイン「ピーターパン」をはじめ数々の20世紀アメリカ音楽の日本初演を果たす。佐藤聰明作品を指揮したCD「仄かなる闇」をカメラータより発売。2020年NHK連続テレビ小説「エール」では指揮者役でドラマ出演。国立音楽大学客員教授

【楽曲紹介】

シューベルトの交響曲第2番は、演奏機会は少ないが、音楽的には充実した内容の作品である。この曲は、1815年3月、宮廷直属コンヴィクトと呼ばれるウィーン的全寮制寄宿学校の校長先生に献上されている。コンヴィクトは、大学入学の予備教育（普通教育）と宮廷教会の合唱団員の養成を目的とした機関で、元はイエズス会の学校であった。シューベルトは1808年、11歳の時にこのコンヴィクトに入学を許可され、宮廷礼拝堂聖歌隊（現在のウィーン少年合唱団）の一員に迎えられた。ここには小さいながらも上手なオーケストラがあり、シューベルトの初期の作品はコンヴィクトのオーケストラのために作曲されている。この曲を作曲した時には、シューベルトはすでにコンヴィクトを卒業していたが、若いシューベルトはハイドンの交響曲に敬意を表して作曲したといわれている。

モーツァルトの交響曲第40番は、1788年7月25日、ウィーンで完成された。同じ年に作曲された39番（6月26日）、41番（8月10日）とともに、「後期三大交響曲」と呼ばれているが、モーツァルトが何のために作曲したのか、いつ初演したのかは不明。ただし、この40番には、クラリネットのない版とある版の二つが存在するので、実際に演奏されたことはほぼ確実。クラリネットが発明されたのは1700年頃だが、当時はまだ一般的ではなく、1778年マンハイムを旅したモーツァルトが「ザルツブルグのオーケストラにクラリネットがあったら！」と手紙に書いているくらい。モーツァルトはクラリネットが大好きだったので、もし演奏するオーケストラにクラリネットがあったら、喜んで譜面を書き足しただろうと思われる。また、40番はト短調という当時としては珍しい調性で書かれており、交響曲では外に「25番」しかない。ト短調はフラット（ b ）が二つ付いている調性で、同じくフラット二つの変口長調の並行調である。クラリネットは変口長調の楽器なのでその点でも非常に相性がよい組み合わせということになるかもしれない。

管弦楽：小金井市民オーケストラ Koganei Civic Orchestra



1982年（昭和57年）、元東京フィルハーモニー交響楽団ヴァイオリン奏者の故・椎野謙一郎氏を中心に、小金井市内在住・在勤の音楽愛好家により創設。現団長は元読売日本交響楽団ファゴット奏者の越康寿氏。毎週日曜日、栗山公園健康運動センター（東小金井）を拠点に活動。小金井市民交流センター（宮地楽器ホール）のこけら落とし公演となった「小金井市文化協会創立20周年記念演奏会」、「3.11東日本大震災メモリアルコンサート」、小金井市民による「第九特別演奏会」等数々の名演を行っている。

小金井市民オーケストラでは団員を募集しています！

詳しくはホームページ <https://www.koganeiorchestra.jimdo.com/> をご覧ください！